活動状況報告（６月）

スポーツコース　５期生　太田　ゆき菜

　アメリカのイリノイ州は北海道の真夏のような天気となり、いよいよ本格的な夏が始まりました。今月は①車いす陸上のホームゲーム，②カナダでの研修,③日常の様子，についてレポートします。

①車いす陸上のホームゲーム

　6 月初めに Fast Cow という車いす陸上のホームゲームがありました。イリノイ大学は北海道のようなとうきび畑の中に位置しており、陸上競技場の向かいは牧場で、選手たちが走っている後ろで家畜たちが走っているのがみえます。そのためイリノイ大学車いす陸上チームのロゴはホルスタインがレーシングチェアに乗っているものであり”Fast Cow”と長年選手たちから親しまれています。普段のロードでの練習はこの農村地区の広く車通りが少ない環境が役に立っていますが、この環境はひたすらまっすぐな平坦な道路が続く、私の出身地である十勝とも共通することが多く、北海道は車いす陸上にとっては良い練習環境を備えているように感じます。話は戻りますが、この時期のトラックチームは大会が多くタイトなスケジュールの中での大会でしたが、ホームゲームらしくアットホームな雰囲気の中での試合となりました。私自身も選手としてレーサーに乗り、100m と 400m のゲームに出場して、4 月のハーフマラソンに続き、トラックでのゲームデビューを果たしました。私以外の選手はパラリンピアンで金メダリストの選手もいるため、ものすごく速くて一人だけ遅れてのゴールでしたが、このような環境でレースに出場できたことを嬉しく思います。また自分が実際にプレーすることでシートのフィッティングやフォーム、グローブの調整、練習メニューなど、日々自分の身体を使いながら学べているので有り難いです。

　今回の大会は下肢に障がいのある高校生が観に来てくれていたので、空き時間にはちゃっかりレーサーに乗ってもらい車いす陸上の面白さを体験してもらいました。観客席から観ることも楽しいですが、パラスポーツは実際に体験してみてこそなところがあるので、一緒に来ていた健常の姉妹にも体験してもらいました。大会後は一緒にピザを食べながら、車いすでの大学進学にあたって不安に感じていることなどをシェアしてくれました。このように横のつながりを大切にしながら、障がいを持った若者たちのそれぞれの世界へのチャレンジを応援できると嬉しいです。

②カナダでの研修

　6 月中旬に数日間カナダのバンクーバーへ行き、冬季種目の施設を中心に見てまわり、女性を対象とした車いすスポーツのプログラムに参加しました。バンクーバーは、夏冬含めた多くの競技施設が 1 箇所に集まっていることが多く、いろいろなスポーツにチャレンジしやすい環境にあるように感じました。また定期的に参加できる車いすスポーツプログラムもあり、この組織では会員の子供達へ車いすの貸し出しも行っています。私が今回参加したプログラムは練習やゲームだけでなく、机上での学習もあり、チームビルディングで交流を深めたのちに、グループに分かれて女性のスポーツ参加に関してディスカッションを行いました。このディスカッションは非常に興味深く、多くの女性参加者が、女性のライフサイクルの中で継続的なスポーツ参加が難しい場面があることや、女子選手特有の健康上の問題、選手だけでなく女性コーチへのフォーカスの必要性など、様々な意見が出たと同時に、世界共通で同じような問題を抱えているようにも感じました。女子選手が安心、健康にスポーツを楽しめる環境づくりは私の中での大きなテーマの一つでもあるので、何かアクションを起こせるようになりたいと感じています。

③日常の様子

アダプティブスポーツチームの日常では、脳震盪や上肢の怪我、障がいが関与した健康上の問題などが起こることもあり、現場での対応について勉強する機会をいただけています。外傷に対する対応もそうですが、それが起こらないような予防の概念を持った環境作りも積極的にしていきたいと感じています。また、アメリカの PT のオンラインセミナーにも参加し、学びを深めています。今月はシカゴハーフマラソンの帯同も行いました。

また、6 月中旬には日本の企業が訪れ、約 1 週間かけて車いす陸上のデータ収集が行われたため、朝から夕方までデータ取りや通訳のお手伝いをしました。アメリカそして世界で活躍するトップ選手数人のレーサーを作っているのは実は日本の企業であり、今回間近でその技術を見ることが出来、日本の技術は世界に誇れるものであると感じました。そして普段日本人にお会いすることはほとんどないので、久しぶりに日本語をたくさん使い、英語でよりも細かいお話しすることができました。今回素晴らしい研究をしている日本の方たちとアメリカの地で出会えたことをとても嬉しく思いますし、このご縁を大切にしたいと思います。

その他には福祉用具関連で電動車椅子のデモに参加しました。今回試乗した電動車椅子は、階段昇降や、雪上、砂浜などの走行も可能ですが、まだまだ値段が高く実際に使用するにはハードルが高いように感じましたが、ジョイスティックでの操作だけでなく、重心の移動によっても操作が可能であり、走行時の高さも変えることができるため、車いすユーザーと歩行者が同じ目線で会話しながら歩くことも可能です。これは何気ないようなことに感じますが、とても画期的なことだと感じます。また大学内ではウィール(タイヤ)のない電動車いすの開発も行われており、徐々に車いすが出来上がっていく過程を見ることができるのは面白いです。この車いすは体重移動のみで 360 度方向の移動が可能で、車いすユーザーにとって横方向の移動が簡単にできることは普段の生活で馴染みのない動きのため、新鮮であり、多くの試乗者が魅了されていました。

また車いすを上肢で操作する必要がないため、手をつないだり、コーヒーを手に持ちながら移動したりすることも可能で、これらが日常生活で可能なことはとても素晴らしいことです。大学内ではニーズに応じて様々な研究が行われており、とても面白いです。

このように毎日多くのことを学べる環境ですが、今月はアメリカで学んだクラス分けの知識を北海道のチームへの対応に活かすことができました。引き続き、こちらでたくさんのことを経験し、北海道に還元できるよう活動していきたいです。

現在は 6 月末から 7 月初めにかけて、イリノイ大学のアダプティブスポーツチームがホストするジュニア選手を対象にした車いすバスケットボールと車いす陸上のサマーキャンプが始まっています。朝から晩まで忙しいですが、私も毎日手伝いながらコーチングだけでなく、キャンプの運営面の勉強にもなりとても有意義な時間を送れています。これについては来月詳しく報告したいと思います。留学期間も残り僅かとなってきました。引き続き、毎日を大切に過ごしたいと思います。

①車いす陸上のホームゲーム

②カナダでの研修

③日常の様子

START
START